

東日本大震災と自然史系博物館 被災自然史標本の修復技法と博物館救援体制を考える研究集会

東日本大震災から一年余り、陸前高田市立博物館の標本レスキューを開始してから一年がたちました。この間、全国の自然史系博物館は被災した標本のレスキューや、現地での子どもを中心とした博物館コミュニティの支援など、様々な活動を展開しています。現地も、実際の作業を行った各博物館も、すべて前例のない緊急措置、現場判断、試行錯誤の中で進めてきたというのが実際ではないかと思えます。標本の修復手法は果たして確立できたのか、自然史系博物館のレスキュー体制はどうあるべきなのか、三陸の自然史文化と博物館復興のためにこれから為すべきことは何か、これまでの活動を中間総括して考える機会を持ちたいと思えます。

主催 西日本自然史系博物館ネットワーク、日本学術会議自然史・古生物学分科会、大阪市立自然史博物館
後援 昆虫担当学芸員協議会、自然史学会連合、(財)日本博物館協会、(特活)大阪自然史センター
日時 2012年4月30日
会場 大阪市立自然史博物館 講堂
(大阪市東住吉区長居公園1-23 TEL: 06-6697-6221 <http://www.mus-nh.city.osaka.jp/>)
参加費 無料(ただし博物館入館料300円のみ必要)

プログラム

ポスターセッション 1030-1230 標本修復や救援に携わった各博物館の試みを掲示し、議論します。

※ 自然史標本レスキュー、博物館支援に関わった各博物館および関連団体の皆さんからのポスター参加を募集します。40団体程度。ポスターは幅90cm×高さ180cm以内で作成してください。当日参加できない方は大阪市立自然史博物館宛てにお送りいただくことも可能です。

ポスター参加希望の方は4月20日までに monitor@mus-nh.city.osaka.jp までにて表明してください。

開会の挨拶 山西良平(西日本自然史系博物館ネットワーク理事長・大阪市立自然史博物館館長) 1230

セッション1 津波被害標本処理の技術的な課題とその記録 1240-1410

論点提出: 藤井千春(昆虫・岩手県立博物館)

指名討論者: 布施静香(植物・兵庫県立人と自然の博物館)、石田惣(貝・大阪市立自然史博物館)、平田慎一郎(小規模館・きしわだ自然資料館)、川端清司(化石・大阪市立自然史博物館)

進行 大原昌宏(北海道大学総合博物館)

セッション2 自然史系博物館のレスキュー体制を巡る課題 1420-1550

論点提出: 佐久間大輔(西日本自然史系博物館ネットワーク)

指名討論者: 鈴木まほろ(岩手県立博物館)、松下正和(神戸大学・歴史資料ネット)、金沢至(大阪市立自然史博物館・昆虫担当学芸員協議会)、半田昌之(日本博物館協会)

進行 斎藤靖二(神奈川県立生命の星・地球博物館)

総合討論 これからしなければならないことは何か 1600-1730

指名討論者: 八木剛(兵庫県立人と自然の博物館)、西澤真樹子(大阪自然史センター)、岡本真(saveMLAK)、演者未定(陸前高田市立博物館)、西田治文(中央大学・日本学術会議)

進行 真鍋真(日本学術会議・国立科学博物館)・佐久間大輔(大阪市立自然史博物館)

※ セッションと総合討論では、自然史系の専門学芸員集団としてこれまでの救援活動を総括し、今後の活動の方向性を見出すことを目的として会場の皆さんとディスカッションしながら進行していきます。

具体的な経過や工夫はポスターセッションに譲り、論点提出では皆で討議すべき論点を15分程度で指摘してもらい、指名討論者の皆様にはそれぞれの立場から5分程度で意見ををお願いします。十分に時間をとっていますので会場からの議論参加をお願いしたいと思います。

閉会の挨拶 西田治文(日本学術会議)

問い合わせ: 大阪市立自然史博物館 佐久間大輔 06-6697-6221 sakuma@mus-nh.city.osaka.jp